

令和8年度 大泉南小学校 学校経営方針

練馬区立大泉南小学校

校長 皆川 伸一

【はじめに】

「つどう・つながる・つむぐ」 — 対話と自律が創る学校へ —

大泉南小学校では、令和8年度の教育活動を進めるにあたり、「つどう・つながる・つむぐ」という3つの営みを学校経営の柱に掲げます。

① 「つどう」：子供たちの「居場所」の保障

学校は、子供たちが「ここにいていいんだ」と心から実感できる場所でなければなりません。どのような背景を持つ子であっても、物理的・心理的な安全性が保たれた「居場所」があること。この安心感という土台があってこそ、子供たちの健やかな成長と学びが始まると考えます。

② 「つながる」：多様な個性が響き合う場

小学校時代は、自分らしさを安心して表現し、他者との関わりを学ぶ貴重な時期です。一人ひとりに適した学校との関わり方を尊重し、多様な仲間と共に活動する中で、互いの違いを認め合い、折り合いをつける力を育みます。「自分が必要とされている」という手応えこそが、多様な社会を生きていく力となります。

③ 「つむぐ」：共に未来を創り出す力

日々の学習や行事での経験を自信として積み上げて、子供たちは自分たちの手で未来をつむいでいきます。子供たちが自らの力で未来を切り拓いていく営みを、私たちは全力で支えていきます。

結びに：地域と共に、信頼の絆をつむぐ

この指針は、教職員、保護者、地域の皆様にとっても共通の願いです。大人が互いに尊重し合い、対話を通じて信頼を深める「温かな集い」こそが、子供たちの安心に直結します。

皆様と手を取り合い、大泉の豊かな環境の中で、子供たちの輝く未来を共に創り上げてまいりたいと存じます。

【Ⅰ 教育目標（目指す児童像）】

- ◎よく考える子（知）：基礎的・基本的な学力を身に付け、自ら問いを立て、多様な仲間との対話を通してよりよい解決策を導き出せる子。
- ◎思いやりがある子（徳）：自分を大切にするとともに、他者の背景を想像し、互いの違いを認め合いながら共に歩める子。
- ◎たくましい子（体）：安全への高い意識を持ち、自らの心身の健康を主体的に守り抜こうとする子。

【Ⅱ 目指す学校像】

- 1 「安心と所属」を基盤に、一人一人が大切にされる学校
家庭環境や特性にかかわらず、誰もが「ここにいていい。」と心から思える物理的・心理的安全性を最優先する学校。
- 2 「対話と自律」を軸に、共に学び高め合う学校
日々の葛藤においても「他者理解と成長の機会」と捉え、誠実な対話を通じて自分たちの力でよりよい関係を築ける学校。
- 3 「地域と共に歩み」郷土の未来を紡ぐ学校
大泉の豊かな自然や人材を教育に活かし、地域社会全体で子供たちの成長を支え、信頼される開かれた学校。

【Ⅲ 目指す教職員像】

- 1 「情熱と責任」を持ち、一人一人の可能性を引き出す教師
子供たちの多様な背景に寄り添い、粘り強く組織（チーム大南）で一人の子を支える気概を持つ教師
- 2 「学びと対話」を大切に、専門性を磨き続ける教師
互いの授業を公開・検討し合う文化を楽しみ、最新の知見（ICT・特別支援等）を取り入れながら、子供と共に成長し続ける教師
- 3 「健康とゆとり」を保持し、笑顔で子供に向き合う教師
働き方改革を主体的に進めて心身の余白を作り、どんな時も冷静かつ温かく子供たちを迎えられる教師

【Ⅳ 学校経営目標】

- 1 授業改善と特色ある教育活動：主体的・対話的で深い学びを実践し、地域資源を活用した本校独自の学びを構築する。
- 2 子供に身に付けさせたい生きる力：「だれともつながらない」児童をゼロにする多層的支援と、多様な他者と「折り合い」をつける力の育成。
- 3 安全安心で信頼される学校づくり：報告・連絡・相談による組織力の強化と、教職員の働き方改革を推進する。

【VI 学校経営目標と重点項目、具体的方策】

1 確かな学力の定着（授業力向上と ICT 活用）

- ・ 授業力向上のための PDCA とフィードバック：年に3回のOJTを兼ねた授業観察を行う。授業後は観察記録やミニ検討会を設ける等、丁寧なフィードバックを行い、各々の強みや改善点を認識できるようにする。若手教員もベテラン教員も互いに学び合えるOJTを充実させる。
- ・ ICTの日常活用：授業や家庭学習等、タブレットPCの活用を促す。操作スキルの習得だけでなく、子供たちの思考や意見交換のツールとして活用できる力を育成する。
- ・ 個に応じた学習支援：算数科における習熟度別少人数指導を推進し、個に応じた支援を行う。朝読書や読書旬間、学校司書と連携した図書館活用により、全ての学びの基盤となる言語能力を養う。

2 豊かな心の育成（人権・道徳・特別支援）

- ・ 人権を基盤とした教育と服務事故防止：全教育活動の根底に人権意識を据え、体罰・暴言・性暴力を絶対に許さない透明性の高い指導体制を確立する。「生命の安全教育」を推進し、自他を大切にする関係性を築く。
- ・ 特別支援教育への深い理解：「今いる目の前の子に何ができるか」をチームで考え抜き、意見を共有し、必要な支援や具体的な方策を考える。特別支援学校との交流および共同学習（副籍等）を通じ、共生社会の担い手を育てる。
- ・ 「考え、議論する道徳」の推進：道徳授業地区公開講座等を通じ、自分自身の生き方や価値観について深める時間を設ける。

3 いじめ防止と不登校支援

- ・ いじめ防止「チーム大南」の強化：月1回の児童アンケートや日誌、情報を「すぐに・だれかと」共有する文化を定着させる。些細な予兆を見逃さずに「チーム大南」として共有し、組織的に早期対応する。
- ・ 不登校支援、誰ともつながらない児童をゼロにする多層的なアプローチ：不登校傾向の児童に対し、クリサリススペース（別室）やつむぎ（個別支援）を有効活用し、学校内に居場所を作る。「誰ともつながっていない子」をゼロにする。
- ・ 児童の心理的安定と環境調整：児童の心理的不安の背景を分析し、環境調整を行う。専門機関（SSW・SC等）や石神井学園等の施設と緊密に連携し、子供の心の不安を組織で受け止める。

4 健やかな体と安全教育

- ・ 命を守る行動の体得：避難訓練、交通安全、登下校指導において、自分の命を自分で守る基本の行動を徹底する。特に学校周りの交通安全教育を重視する。

- ・健康管理と暑さ対策：熱中症対策やアレルギー事故防止（エピペン研修・誤食防止マニュアルの徹底）による事故の未然防止。
- ・体力向上の日常化：縄跳び、マラソン、外遊びの推奨に加え、食育を通じた健康な体作りと地域農業への愛着を育む。

5 働き方改革と組織の健全化

- ・勤務時間の適正化と早期退勤の取組：週1回の定時退勤、土日出勤の抑制を具体的に進める。校務のデジタル化（ペーパーレス化、文書共有）を推進し、子供と向き合う「時間と精神のゆとり」を創出する。
- ・連絡体制の確立による組織運営：講師、事務、サポートスタッフを含む全職員の意見が共有できる体制を確立する。報告・連絡・相談（ホウレンソウ）が徹底され、情報が停滞することなく、全員が「チーム大南」の一員として機能する体制を整えます。重大な怪我等への対応マニュアルを厳守する。

6 地域連携と開かれた学校づくり

- ・学校HPや連絡ツールを使った情報発信：内容に応じて効果的に保護者や地域へ学校の情報を発信し、学校の「今」を分かるようにする。学校の取組を広く発信することで、保護者・地域の信頼を得る。
- ・地域資源とキャリア教育の推進：牧野記念庭園、白子川、地元農家等との連携を通じた郷土学習を充実させる。また、パパプロジェクトによる「生き方学習」等、地域人材を積極的に活用する。
- ・青少年育成委員会、町会との地域活動の推進、学校評議員・PTAとの連携及び支援：地域を学校運営のパートナーとして迎え、地域活動の活性化に努める。学校評議員と連携した学校運営を行い、持続可能な形でPTA活動を模索・支援する。

7 教育課程の円滑な接続と小中連携

- ・大泉二中グループとの連携：二中・二小・南小での「目指す15歳の姿」を共有し、中学校進学を見据えた指導や情報の円滑な引き継ぎを行う。
- ・スタートカリキュラムの活用：幼保小の「架け橋期プログラム」を活用し、新1年生が安心感を持って小学校生活をスタートできる環境を整える。

8 人材育成と施設管理

- ・計画的な若手・管理職育成：初任者・若手へのOJT研修を年10回程度実施する。次代の管理職やリーダーを育成するとともに、教職員のワークライフプランを尊重したヒアリング及び指導助言を行う。
- ・校舎の老朽化対策と環境整備：改築計画を見据えた日常的な点検と補修を徹底する。性暴力防止の観点からも、校舎内外の見回りを強化して死角をなくし、児童の安全を守る。